

2023年度 秋学期派遣 Business Studies Abroad II・IV 2次募集 募集要項

<https://ritsumei-ba-gblp.jp/>





INDEX

1	Business Studies Abroad II・IV募集の流れ	P. 1
2	Business Studies Abroad II・IVとは？	P. 1
3	応募資格について	P. 2
4	留学予定先について	P. 3
5	学籍と受講登録について	P. 4
6	留学決定後の事前ガイダンスについて	P. 5
7	応募書類について	P. 5
8	選考方法について	P. 5
9	留学に関わる費用・奨学金について	P. 6
10	単位認定と成績評価について	P. 7
11	注意点	P. 7
12	個人情報について	P. 7
13	派遣先大学紹介	P. 8
14	新型コロナウイルス感染症に関する留意点	P.15
15	立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項	P.18
16	立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に関する承諾書	P.20

※新型コロナウイルス等の病や災害といった不可抗力に起因する事態が発生した場合、プログラムの最終派遣実施判断は派遣先大学と調整の上、本学経営学部が行うこととします。そちらを承諾の上、プログラムの申請をご検討下さい。

1 Business Studies Abroad II・IV募集の流れ

以下のとおり、2023年度秋学期派遣BSA II・IVの2次募集を行います。(選考年度:2022年度)

項目	日程	方法	備考
<p>※応募を考えている方は 必ず応募の前に経営学部事務室国際担当にご相談の上、応募ください。</p> <p style="text-align: right;">manaba+R > 経営学部生のページ > 【BSA】経営学部独自留学プログラム</p> <p style="text-align: center;"><経営学部事務室 国際担当 @AC事務室内> 平日9:00~17:00 (土日祝、11:30~12:30を除く) ☎072-665-2090 ✉ba-koku@st.ritsumei.ac.jp</p> <p>★先輩の留学体験談動画をmanaba+Rで公開しています！応募の際の参考にしてください！ → </p>			
応募書類提出期間	12月1日(木)~12月8日(木) ※最終日17時00分締切	<p>【応募書類入手方法】 BSAのHP<https://ritsumei-ba-gblp.jp>よりダウンロード</p>  <p>【提出方法】 申請資料一式を印刷し左上にホチキス止めの上、OIC学びステーション窓口で提出</p>	<p>・応募書類を手書きで作成する場合はすべて黒のボールペン(鉛筆・フリクションは不可)で記載すること</p> <p>・応募書類に不備のあった場合、不備修正を含め応募締切までに行う必要があることに留意すること</p> <p><窓口での提出受付時間> 平日9:00~17:00 (土日祝、11:30~12:30を除く)</p>
面接期間	12月12日(月)・13日(火) 各日ともに10:40~17:20	ZOOM	<p>・応募書類の提出時に左記日程より希望日時を複数提示ください</p> <p>・30分程度の個人面接</p> <p>・詳細は学内メールへ後日(12/9を予定)連絡しますので、確認後返信をお願いします</p>
派遣許可者決定 (合否結果発表)	12月21日(水) 10:00	manaba+R	<p>合否結果は、 manaba+R > 大学からのお知らせ > 「留学」 に掲載されます。</p>
第1回派遣者ガイダンス	2023年1月12日(木) 12:10~	対面実施(予定)	<p>詳細は合格者に別途学内メールにて連絡します</p>

2 Business Studies Abroad II・IVとは？

BSA II及びIVは、経営学部で学んでいる皆さんに、自らの専攻する学問に対して国内だけでなく、グローバルな社会の要請や意義を確かめ学んでいただく経営学部独自の留学プログラムです。留学先大学で修得した外国語や専門科目は、経営学部の単位として認定されます。そのため、留学前の本学での学修と留学先での学修を積み上げていけば、留学したことで卒業が遅れることはありません。

またこのプログラムの基本は交換留学であり、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため(派遣型留学を除く)、留学先に学費を支払う必要はありません。「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」に基づき、留学期間に応じて奨学金も支給されます。

BSA II及びIVは、国際経営学科で学ぶ皆さんが、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍する「ビジネス・リーダー」になるために開発されたプログラムです。

共通	<ul style="list-style-type: none"> 経営系の大学やビジネススクールで各自の経営学の専門分野に応じた正規留学科目を受講することができます。 	BSA II	1セメスターの交換型留学
	<ul style="list-style-type: none"> 原則、中国の大学では中国語、それ以外の派遣先大学では英語で開講される授業を受けることになります。派遣先大学によってはその派遣先国の言語で開講される授業も受講できます。また、各自の語学レベルによっても派遣先国の言語で開講される授業の受講が許可される場合があります。 	BSA IV	2セメスター、3セメスターの交換型 / 派遣型留学

* 経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語もしくは中国語による「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSA留学プログラム、および全学留学プログラムにて海外に留学に行く学生はぜひ受講してください。

3 応募資格について

プログラムの応募資格は次の1)～6)の通りです。

なお、応募にあたっては事前に必ず経営学部事務室国際担当に相談ください。

- 1) 応募時に経営学部1・2回生であること。(3回生で応募希望の方は、相談時に申し出てください。)※大学院生は対象外
- 2) 累積もしくは直近セメスターのGPAが2.75～3.0以上であること。
- 3) 留学先の定める語学基準を満たしていること。
 ※詳細は「4-1. 派遣先一覧」の語学基準欄を参照してください。
 ※経営学部では申請と所定の審査に基づき、講座や検定試験の受講・受験料の補助を下記の通り行っています。
 詳細は経営学部事務室までお尋ね下さい。
 - ・CLA(言語習得センター)、孔子学院の中国語講座の講座受講料 25,000円(上限)※在学中1回まで
 - ・TOEFL iBT[®]テスト、IELTS、IELTS for UKVIの受験料 15,000円(上限)※1年度中1回まで
- 4) 本プログラムの趣旨・目的を理解し、留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修のすべてに参加可能であること。
- 5) 留学先のプログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。
- 6) 留学直前のセメスターに立命館大学に在学していること。



BSAプログラムと全学募集プログラム(国際教育センター主管の留学プログラム)を併願することはできますか。

すでに同じ期間に実施される留学プログラムの選考に応募・合格している方は、同期間のプログラム(全学募集プログラム・BSAプログラムの別を問わず)に応募できません。同じ期間に実施されるプログラムへの応募を希望する場合は、応募・合格しているプログラムの辞退を申し出た後で、応募してください。



memo

4 留学予定先について

4-1.派遣先一覧

	国・地域名	派遣先大学	実施期間(※1)		派遣人数 (※2※3)	GPA	語学基準(※4)
			Ⅱ:1セメスター	Ⅳ:2セメスター			
交換留学	中国 大連市 旅順	大連外国語大学	8月下旬～ 翌年1月中旬	8月下旬～ 翌年7月中旬	2名 程度	2.75 以上	派遣までに新HSK4級(180～194点)以上/ または中国語検定3級以上を取得する事が望ましい
	タイ バンコク	タマサート大学 ビジネススクール	8月下旬～ 12月下旬	8月下旬～ 翌年4月下旬	2名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上 または IELTS 6.0以上
	スウェーデン ストックホルム	ストックホルム大学 ビジネススクール	8月中旬～ 翌年1月下旬	8月中旬～ 翌年6月上旬	1名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上 または IELTS 6.0以上
	ドイツ ブレーメン	ブレーメン州立 経済工科大学	9月下旬～ 翌年2月下旬	9月下旬～ 翌年7月中旬	2名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト71点以上 または IELTS 5.5以上
	ドイツ アーヘン	アーヘン 応用科学大学	9月上旬～ 翌年2月下旬 夏期集中ドイツ語コース含む	9月上旬～ 翌年7月中旬 夏期集中ドイツ語コース含む	1名 程度	2.75 以上	IELTS 5.5以上
	スペイン マドリッド	アルカラ大学	8月中旬～ 翌年1月下旬	8月中旬～ 翌年6月上旬	1名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト72点以上 または IELTS 5.5以上
派遣型留学	イギリス レディング	レディング大学 【派遣型留学】	Ⅱなし	8月上旬～ 翌年3月下旬 夏期集中英語コース含む	10名 程度	2.75 以上	IELTS for UKVI 5.0以上 (2016年度より、イギリスビザ取得においてIELTS for UKVI Academic の受験が必須となりました)

(※1) 派遣時期は若干ずれることがあります。

(※2) BSAIVで学生を派遣する際の派遣人数を記載。

(※3) 応募者多数の場合は、調整を行った上で第二志望の大学に派遣となる可能性があります。

(※4) 応募書類提出時までに上記語学基準を満たす必要があります。ただし母国語を中国語とする方は中国語基準での応募申請はできません。

4-2.授業形態

【中国語基準による留学】

・大連外国語大学では次のような学修が可能です。

①中国語科目、一部の経済・経営科目を履修する。

※経済・経営科目を受講する場合は、新HSK4級(210～300)以上の取得が条件です。

②インターンシップ(別途審査があります)を受講。但し、インターン先はご自身で探していただきます。

【英語基準による留学】

・各自の専門分野に応じたビジネススクールの正規科目(英語開講科目)を受講。

・各大学とも現地の言語の初歩レベルの科目を履修可能。

・また、現地の言語のレベルにより正規科目(現地言語にて開講される科目)を受講できる可能性があります。

5 学籍と受講登録について

5-1.学籍

秋学期派遣のBSAⅡ・Ⅳプログラムで留学する際に、立命館大学での学籍が「在学」から「留学」に変更になる期間は以下の通りで

派遣大学	BSAⅡ	BSAⅣ
大連外国語大学	秋学期	秋学期・春学期
タマサート大学ビジネススクール	秋学期	秋学期・春学期
ストックホルム大学ビジネススクール	秋学期	秋学期・春学期
ブレーメン州立経済工科大学	秋学期	秋学期・春学期
アーヘン応用科学大学	秋学期	秋学期・春学期
アルカラ大学	秋学期	秋学期・春学期
レディング大学		秋学期(★)

(★)立命館大学では秋学期(1セメスター)のみ学籍状態が「留学」になります。(※3月31日までに留学終了届が提出・受理された場合で、かつ卒業該当最終学期での留学でない場合のみ。)

5-2. 帰国後受講予定の立命館大学開講科目 受講登録について

■夏出発のBSAⅡ・Ⅳプログラムで留学する学生は、以下の点に留意してください。

A. 【春学期授業開始日の前日までに留学し、留学終了届が受理された場合】

在学生と同じ日程で受講登録をすることとなります。

B. 【4月30日以前に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

帰国日が立命館大学春学期授業開始日を過ぎる場合は、受講可能な科目に制限があるため、注意してください。

※帰国日が5月1日以降となる場合、春学期科目・通年科目を受講することはできません。

→春学期科目・通年科目のうち、教養科目・外国語科目の受講は不可。専門科目のうち一定の科目を除き受講可能。

受講可能科目の詳細及び登録方法は、登録時期に別途案内があります。また、欠席した授業については、適宜課題等が提示されます(予定)。

C. 【5月1日以降に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

5月1日以降に帰国した場合は秋学期より復学するので、秋学期以降に受講が可能となります。

※ただし、夏季集中科目およびクォーター的運用をしている科目については、「留学終了届」が当該科目の受領開始日までに受理され、実質的に受講可能な場合は受講が認められます。

■注意点

- ・時間割および履修・登録の手引きは、manaba+Rに掲載されるので各自確認してください。
- ・登録方法、期間、時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間で管理されます。
- ・上記記載の「帰国」とは日本帰国・入国後にOIC学びステーションに学生本人が来室し、「留学終了届」を提出後に受理された状態のことを指しています。



memo

6 留学決定後の事前ガイダンスについて

留学前に2～3回程度ガイダンスを行います。派遣には、このガイダンスへの出席が必須です。ガイダンスに出席できない見込みがある場合は、BSA II・IVに応募出来ません。

許可を得ずにガイダンスを1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加を取りやめる場合がありますので、注意してください。また、保健センターが主催する健康管理ガイダンスや危機管理ガイダンスにも必ず参加してください。

※原則、授業以外での欠席理由については一切許可しません。予めご了承ください。

7 応募書類について

7-1.応募書類

- 1) BSA II・IV応募書類チェックリスト
- 2) BSA II・IV申請書
- 3) BSA II・IVを希望する理由
- 4) 履修計画書
- 5) 直近セメスターのGPAを確認できる書類(※A4サイズ)
 ※CAMPUS WEBにログインの上、「科目一覧」および「GPA一覧」を表示し、
 学生証番号、氏名、2022年度春学期のGPAを確認出来るよう設定しPDFにしてください
 ※成績証明書は累積GPAが掲載されていない為不可
- 6) 外国語検定試験のスコア証明書のコピー
 ※派遣先大学に書類を送付する日から遡って2年以内に受験したもののみ有効
【英語圏】
 TOEFL iBT[®]テスト、またはIELTS (IELTS for UKVI) のスコア表のコピー
【中国語圏・大連外国語大学】
 中国語検定またはHSK(漢語水平考試)スコア表のコピー (未受験の場合は不要)
- 7) パスポートの写し(有効期限内のもの)
 ※派遣先の国によって入国時やビザ申請時にパスポートの残存有効期限に条件があります。
 各自条件をご確認の上、有効期限には十分注意してください。

7-2.応募用紙の配布・受付場所 ※QRはP.1に掲載されています

【応募用紙配布】:BSAホームページ<<https://ritsumeiba-gblp.jp>>よりダウンロード ※受付期間中のみ

【提出方法】:申請資料一式を印刷し左上にホチキス止めの上、OIC学びステーション窓口で提出

※受付時間を厳守してください。提出締切日以降は一切受け付けません。

※最終日ではなく、事前に十分余裕を持って書類を準備してください(不備がある場合は受理できません。)

8 選考方法について

選考は、申込レポート・成績・派遣先大学が求める語学基準を満たしているかを重視して、担当教員が書類審査及び面接を行い、経営学部教授会での審議を経て決定されます。



memo

9 留学に関わる費用・奨学金について

9-1. 費用

交換留学の場合には、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため、留学先に学費を支払う必要はありません。
(レディング大学派遣者のみ、決められた期日までに授業料を振り込む必要があります)

【主な費用】

- ・包括海外旅行保険費用(※大学指定の保険に参加者全員加入していただきます)
- ・ビザ取得の為にかかる費用
- ・渡航費(航空券)
- ・現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・寮申請費および寮費
- ・現地での交通費
- ・教材費等
- ・クリーニング代、電話代、お土産代などの雑費
- ・娯楽費
- ・医療費(特に現地での歯の治療にかかる費用は日本の数十倍かかる場合があります)

【注意点】

- ・寮費、教材費等は派遣先大学で徴収されます。
- ・費用は、物価の上昇、為替相場によって変動しますのであくまでも参考としてください。

参加費用の過年度実績については、「2022年度 BSAの手引き」P.20を参照してください。
(※https://ritsumei-ba-gblp.jp/pdf/2022_BSA_tebiki.pdf?ver=1.1)

9-2. 奨学金

※奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室またはOIC国際教育センターに確認を行ってください。

1) 立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に給付されます。

プログラム名	派遣先大学名	派遣期間	奨学金金額
BSA II	大連外国語大学	1 Semester	15万円
	タマサート大学ビジネススクール		25万円
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
	アルカラ大学		
BSAIV	大連外国語大学	2 Semester	20万円
	タマサート大学ビジネススクール		30万円
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
	アルカラ大学		
BSAIV 【派遣型】	レディング大学	2 Semester	30万円

※奨学金の金額は今後変更となる場合があります。

2) 立命館大学海外留学サポート奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難であることが見込まれる者に対し、参加費用の一部を補助することによって、参加の支援を行うことを目的とする制度です。

海外留学サポート奨学金には、「予約採用型」「家計急変型」の2つのタイプがあり、いずれも要項に定められた家計基準を満たす場合に、奨学金選考の対象となります。給付額や申請・選考方法などの詳細は、以下を確認してください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/studyabroad/planning/scholarship/>

3) JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)海外留学支援制度

立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途受給要件を告知した上で選考を行います。

10 単位認定と成績評価

単位認定について(※学修要覧(全学部共通編)P.28 より抜粋)

<規程:学則第37条、第39条、第40条、第41条>

- ① 海外留学や単位互換制度等他大学で修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として学部の教授会で審議の上、学部長が認めることがあります。なお、60単位の上限は、個々の制度・プログラム毎ではなく、他大学等で修得した単位全体の上限となりますので、注意してください。
- ② 入学前に修得した単位を認定された場合(本学の科目等履修生として入学前に単位を修得した場合、社会人方式または社会人方式<AO方式>)は、①と合わせて60単位(うち入学前単位認定の上限は30単位)が上限となります。
- ③ 留学先で修得した単位の認定にあたっては、帰国後速やかに「留学終了届」と「単位修得願および単位認定書」を学部事務室に提出することが必要です。単位認定時期は、留学終了日を含む学期の末日となります。

※ 認定された単位の成績評価には「T」が記載されます。

※ 単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の成績証明書、受講した科目のシラバス(原文及び和訳)、派遣先大学の学年暦を各自準備し、提出する必要があります。

留学前より履修科目や単位認定について窓口で相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

■ 過年度派遣学生の単位認定実績(参考)

派遣先大学	BSA II	BSAIV
大連外国語大学	10～25単位	40～50単位
タマサート大学ビジネススクール	10～15単位	実績なし
ストックホルム大学ビジネススクール	5～10単位	6～15単位
ブレーメン州立経済工科大学	8～15単位	15～35単位
アーヘン応用科学大学	8～15単位	実績なし
アルカラ大学	実績なし	実績なし
レディング大学		20～25単位

※単位認定数や単位認定分野・科目については、派遣先や各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

11 注意点

- 1) 派遣先大学への応募書類の準備、ビザの申請、航空券の手配などは全て各自で手続きする必要があります。経営学部事務室では対応していません。
- 2) 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置はありません。
- 3) 経営学部での選考において派遣内定者として決定したのち、派遣先大学に応募書類を送ります。受入の可否についての最終決定権は派遣先大学にありますので注意してください。また、派遣先大学によっては応募時に別途インタビューなどが課せられる場合があります。
- 4) 留学先での履修については、派遣先大学での規定に則ります。言語能力や履修規定によって履修科目が制限されることがあります。
また、正規科目以外の語学科目(ESL等)や、履修する科目があらかじめ指定される場合もあります。
- 5) 本学及び派遣先が定める期間内に出入国するようにして下さい。(アジア圏は、プログラム開始・終了日の前後3日以内。その他の国地域は、プログラム開始・終了日の前後5日以内)
- 6) 日本学生支援機構奨学金受給者の方は、派遣決定後速やかに学生オフィスに報告を行い、必要な手続きを取ってください。
- 7) 3回生・4回生時に留学に行く場合、就職活動など個人的事由による帰国は一切認められませんので、事前に必ずキャリアオフィスや経営学部事務室に相談してください。
- 8) 派遣先大学の事情により、学生寮に必ずしも入れるとは限りません。その場合は、速やかに経営学部事務室へご相談ください。

12 個人情報について

応募書類に記入する個人情報は、本学からの連絡に使用するほか、今後のプログラム内容の改善を図るための学内統計資料として、個人を特定することのできない形に加工した統計処理用のデータとして使用することがあります。また、本学が留学の参加者に代わって派遣先大学、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館等に、必要な情報についてのみ提供します。

大連外国語大学



過年度派遣学生体験記
(2019年度夏期 BSA II・男性)

「留学中に困ることなんてないだろう」そう思って出発した私ですが、約4ヶ月を振り返ってみると銀行開設、入学手続き、日々の学習面など、様々な人の助けをもらい無事に留学生活を終えることができました。留学は今まで2回経験したことがあったので、カルチャーショックを受けるということは全くなかったのですが、過去の留学とは異なり日本語でサポートしてくれる先生がいなかったため、自力で解決する必要がありました。初めの1週間で生活に必要なものを揃え、授業が始まりました。私のクラスだけ偶然日本人が一人だけだったのですが、そのおかげで私の課題であったスピーキング能力とリスニング能力を向上させることができました。日本で中国語を学習していた時もリスニングとスピーキングだけは授業内では微々たる向上でしたが留学中の普段の生活を通じて習得することができました。もし、クラスに日本人がたくさんいたら成果は少なかったに違いないと思います。

私は留学するまで大連はとて小さな街で、寒い、親日という印象しか持っていませんでした。実際行ってみると、方言が強い面や、比較的親切な中国人の方が多いという印象を受けました。また、ロシアと韓国に近い位置に存在するため、ロシア人と韓国人の留学生の割合が今までの留学の時よりも多かったです。メディアでは日韓関係がよくないといった報道がされているけれど留学生はそのような感情を一切持っておらず、たくさんの韓国人と親しくなり、1月の末に韓国で会う計画もできました。今までは韓国に行きたいと思ったこともなかったけど、このような関係を築くことができたのは大連で留学をしたことによるものだと思っています。

私は3回生の秋学期を利用して留学をしました。大学生活最後のチャンスという反面、正直就活や現地での生活に多少の不安を抱えて、留学をするか非常に迷いました。留学書類締め切りまで迷っていたのが最近のように鮮明に覚えています。しかし、最終的に留学しようという決断に至ったのは「行かずに後悔より行って後悔しよう」という覚悟ができたからです。その結果現地でも思い切って自分のしたいこと、学びたいことを一杯することができ、本当に行ってよかったです。行っていなければ確実に後悔していたと思います。私は大連外国語大学で過ごした約4ヶ月半かけがえのない思い出、友達、学習をすることができました。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：中国・大連市

中国の東海岸に位置し、中国東北遼東半島の最南端にあります。緯度は日本の仙台とほぼ同じです。中国の重要な港、貿易、工業、観光の都市です。

■創立：1964年

■学生数：約15,000人

■大学の特徴：

- ・中国東北地方唯一の外国語大学。漢学院、日本語学院などがあり、本校、分校、研究所など20ヶ所以上の施設を有しています。
- ・漢学院は中国で最も早く中国語言語本科を設けた学校の一つであり、設立20年で30ヶ国から長期留学生約10,000人、短期留学生約4,000人を受け入れています。
- ・漢学院には、中国文化と国際経済貿易の二つのコースが設けられており、中国文化コースで短期間に中国語のレベルを向上させることも可能です。
- ・2013年5月より大連外国語学院から大連外国語大学へ改名されました。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1限目	精読	精読	精読	精読	聴力	休憩 観光 外食	休憩 観光 外食
2限目	閲読	聴力	口語	閲読	口語		
3限目	語法	自習	自習	語法	太極拳		
4限目		自習	自習				

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

タマサート大学 ビジネススクール



国・都市：タイ・バンコク

バンコクの特徴：

王朝の歴史が深い都市でありタイ経済の中心でもある。

■創立：1951年

■学生数：15,000人

■大学の特徴：

- ・法律学校をその前身とした、タイ国内で2番目に古い名門大学。首相、大臣、議員、ビジネスにおける成功者など、タイだけではなく、国際的にも貢献している多くの人材を輩出しています。
- ・過去60年間徐々に拡大し社会科学、人文科学、自然科学どの領域にもコースが増設され現在では15の学部があります。
- ・バンコクの中心地にありチャオプラヤ川沿いのキャンパスで学びます。
- ・全ての科目が英語で開講されています。General Basic Courses、Business Core Courses に加えて、3つの専門分野(Accounting、Finance、Marketing) から科目履修が可能です。タイ人の学生に加えて、世界中から集まる留学生と一緒に学びます。
- ・パディ制度あり。



過年度派遣学生体験記

(2016年度夏期 BSA II・女性)

留学先では、驚くことばかりでした。まず、『タイ』についての印象が変わりました。正直、タイ留学をするにあたり、英語をここまで学べるとは思っていませんでした。英語圏からの留学生も多く、想像以上に優秀な学生ばかりでした。インターナショナルなタイの学生も多く、勉学に必死に挑む姿には感心しました。

今回の留学では、タイの文化や言語、何かに挑む姿勢、そして慈愛の3つを知ることができました。タイ語は授業、そしてビジネススクールのタイ人の友達が教えてくれました。どれも生活で役立つものばかりで、言語を通じてタイ人の優しさにも触れることができました。そして、特にタイ人の学生は、いつも何かを頑張っていました。勉強に励み交換留学を目指す学生、就きたい職に就くために準備をする学生、親の仕事をサポートする学生など、目標に向かって真っすぐに挑んでいました。また、国王が亡くなった際は国民全員が涙を流し、慈愛の素晴らしさを伝えてくれました。

また、タイの授業は正直、かなりハイレベルでした。特に私が履修したビジネスの授業は英語が不自由なく話せる、理解できる学生ばかりで構成されており、驚きました。また、タイ人の学生は予習や復習を熱心にする為、プレゼンテーションや課題のクオリティもとても高いです。殆どの学生が学費を払ってくれる親に大変感謝し、その気持ちを勉強に充て頑張っていました。そんなタイ人の学生と会う度、私もその姿勢を見習うべきだと気付かされました。

一方で、毎週出席することが楽しみな授業もありました。その一つがタイダンスです。各週様々な地域のタイのダンスを踊り、最終日には発表会で成果を披露しました。各地域の衣装や化粧まで体験することができ、大変良い経験となりました。留学生用の授業の一つなので、男性女性関係なく、タマサート大学に留学される方には是非お勧めしたいです。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	Global Environment of International Business	Beginning Thai (タイ語初級)	自習	Beginning Thai (タイ語初級)	旅行、映画、買い物など
午後			Introductory Microeconomic		Thai Dance	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストックホルム大学 ビジネススクール



国・都市：スウェーデン・ストックホルム
ストックホルムの特徴：

ソニーモバイルコミュニケーションズ、Saab、Volvo、IKEAなどの国際企業が多数あることで知られています。

■創立：1878年

■学生数：50,000人

■大学の特徴：

- ・留学生約800人、教職員約6,000人を数えます。ストックホルム大学はスウェーデンの最大かつトップレベルの大学であり、ビジネススクールも、北欧ではトップレベルにランクされています。
- ・ビジネススクールには5,000人以上の学生が所属しています。なお授業は全て英語で行われます。
- ・ストックホルム大学ビジネススクールの卒業生の多くが様々な国際企業で働いています。親日感情が強く、日本人にとって大変生活しやすい国だと言われています。普段の生活でも英語はよく通じます。
- ・パディ制度あり。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSA II・男性)

スウェーデンに留学が決まった直後はあまり実感が湧きませんでしたが、準備が進むにつれて楽しい感情と不安とが混じるようになりました。スウェーデンに到着した時は8月だったのに日本の春くらいの気温で、寒さを感じてしまいました。ただ、スウェーデンで「寒い」といったのは後にも先にもその頃だけだったと思います。はじめは慣れない土地でわからないことが多くありましたが現地の人はとても親切で、次第に楽しさを感じるようになりました。

生活面では、スウェーデンでは物価が高いため物とお金のやりくりにとっても苦労しました。比較的安いスーパーを探してそこで食材を買ったり、いくつかお店を回って安いところを見つけたりと、今考えるとよくやったものだなと思います。入寮してはじめての1ヶ月間はWi-Fiが不調だったのですが、業者にメールを送っても返信が1週間後で、催促してやっと来てもらっても工事が上手くいっていなかったみたいで、もう1回頼んでも取り合ってもらえないといった日本では考えられないことが起こり、文化の違いを痛感しましたがそれもまた良い経験だったと思います。

授業は日本と同じような大講義形式のものもあるのですが、ユニークだったのが少人数のセミナーです。スウェーデンでは1ヶ月に1つの授業を深めるという授業スタイルのため、学習スタイルに慣れるのに時間がかかりました。その一環でセミナーによるグループワークが必ずあるのですが、メンバーは日本とは違い意欲的でとても良い刺激を受けました。授業以外では、日本語を勉強している学生と会話をするカフェに行っていました。そこに来る学生は日本語がとても上手で、その人たちの中には日本に来たこともない人がいたことは自分にとって驚きでした。同時に、留学前に「外国語を上達させるには海外に出るべきだ」という考えは浅いものであったのだなと痛感しました。「練習をする環境さえ整えばどこでも外国語は上達できる」ということを現地の学生から学ぶことができました。彼らとはカフェでのつながりだけでなく、一緒にスウェーデンの家庭料理やお菓子を作ったり、冬にはスケートに行ったりと私の留学生生活をカラフルなものにしてくれて本当に感謝しかありません。

この留学生生活を経て、人とのつながりの大切さと異国で暮らすことの大変さを感じることができました。その一つ一つが新鮮なもので留学をしなければ感じられなかったものであるため、今回スウェーデンに行けたことが今後の自分の財産になることは間違いのないと思います。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	Management (Lecture)	Management (Lecture)	自習	Management (Lecture)	日本語学習支援	日光浴、アイスホッケー観戦、お菓子作り、パーティーなど
午後	Management (Seminar)	Management (Seminar)	日本語学習支援	Management (Seminar)	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ブレーメン州立経済工科大学



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・女性)

私は旅行で海外へ行ったことは何度かありましたが、長期滞在はこの留学が初めてでした。留学中は6人の留学生達とシェアハウスで生活していました。初めは少し緊張しましたが、皆フレンドリーでとても安心したのをよく覚えています。ホームパーティーなどで友達の輪も広がり、シェアハウスでの生活を選んで良かったと思っています。家の掃除問題で揉めたことは何度かありましたが、それも今となっては良い思い出です。

日々の過ごし方は人によって様々で、私は午前中にビジネスの授業、午後はタンデム、夜にドイツ語の授業というスケジュールを組んでいたため、一日中大学で過ごす事がほとんどでした。タンデムとはパートナーと互いに言語を教え合う時間で、私の留学生活の大部分はこの時間で占められていたと言っても過言ではありません。各セメスター6~7人のタンデムパートナーがいたので、ドイツ語の授業のみ受講していた学生と比べると、毎週10時間ほど多くドイツ語を勉強していた事になります。留学して初めてドイツ語の勉強を始める人もいますし、願いすれば英語でのタンデムもしてもらえるので、ドイツ語の知識がない人でも心配ありません。

タンデムパートナーとは勉強だけでなく、旅行やパーティーなど、共に過ごす時間が多かったため、お互いの将来についてなどもよく話しました。そこで日本とドイツの文化や社会の違い、そして考え方の違いに気づかされる事が多々あり、改めて私は日本人なのだと感じさせられました。留学をする前は気づかなかったのですが、やはり自分の価値観など全てがヨーロッパの人々とは違い、良くも悪くも日本的だと自分を見直す事ができましたし、他国の文化を今までよりも理解できるようになったと思います。

留学生活の終盤に、現地の友人に私の第一印象を聞いてみたことがあります。その答えは「日本人らしい小さな女の子」でした。今の印象は？と聞いてみると、「もう小さい女の子ではないね。全て完璧という訳ではないけれど、自分のやりたいことを何でも挑戦して、強くなったと思う。」と返ってきました。ドイツに来て、行動力のある学生たちを目の当たりにして、自分もこの様になりたいと思っていたので、その言葉がとても嬉しく、留学して良かったと強く感じました。

もちろん誰の助けも借りずに自分の力だけで過ごしてきた訳ではありません。多くの人の支えがあってこの留学を無事に終えることができました。ブレーメンで体験した事、学んだ事、出会った人々、全てが今私にとって大きな財産です。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：ドイツ・ブレーメン
ブレーメンの特徴：

中世以来の自由都市としての地位を現代まで維持している。ブレーメン州はブレーメン市と、ブレーマーハーフェン市の2都市からなる。

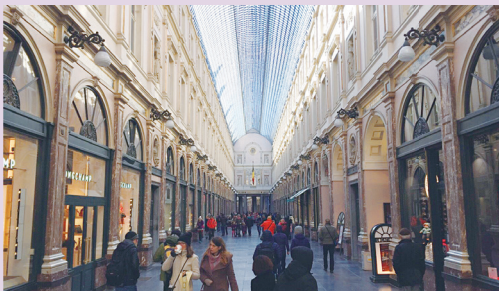
- 創立：1988年
- 学生数：8,000人
- 大学の特徴：

- ・ 州立単科大学で、ヨーロッパはもちろん世界の大学と交換留学協定を結んでおり、留学生の受入体制も整っています。学生の約10%が外国籍です。
- ・ ドイツで最も新しい大学の一つであり、単位互換性の高さや国際性が特色。ドイツ国内の複数の賞を受賞し、2001年にはドイツ学術財団連盟より「改革単科大学」の名称が与えられました。
- ・ BSA学生は経済学部の特設プログラムに参加します。ドイツ語および英語コースが開講され、それぞれの言語で専門科目に参加する事ができます。
- ・ タンデムの制度あり。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	タンデム (ドイツ人とペアを組み、 お互いの言語を教えあう 時間)	授業 (Global Marketing など)	自習	授業 (Strategic Management など)	授業 (Social Media Marketing など)	イベントや 小旅行
午後	タンデム 英語授業	タンデム ドイツ語授業	授業 (Elements of Corporate Finance など)	タンデム	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。 - 11 -



国・都市：ドイツ・アーヘン アーヘンの特徴：

電車でパリから約2時間半、ブリュッセルからは約1時間。車で30分ほど行けばオランダ/ベルギー/ドイツ3ヶ国の国境地点に到着する。古代ローマ帝国時代から温泉保養地として知られており、8世紀末には、一時、フランク王国のカール大帝が王宮を置き事実上の首都となった。

- 創立：1971年
- 学生数：13,000人
- 大学の特徴

- ・世界中の170大学と協定を持っているが、現在日本での交換協定校は立命館大学経営学部のみ。
- ・ドイツの新聞社（Die Zeit）による大学ランキングのビジネス部門でトップにランキングされている。
- ・10学部からなり、アーヘン内の4キャンパスとユーリッヒの1キャンパス、計5キャンパスで開講されている。

アーヘン応用科学大学



過年度派遣学生体験記 (2017年度夏期 BSA II・女性)

私にとって2度目のドイツ滞在は、6ヶ月間のアーヘンでの留学生活でした。留学するまではよく知らない街だったのですが、実は神聖ローマ帝国の時代に有名な場所であったり、世界遺産である大聖堂があったり、ドイツで有名なクリスマスマーケットにおいて国内で5本の指に入るほどの人気地であったりと、魅力が詰まった場所でした。また、アーヘンはドイツ・オランダ・ベルギーの3国が接する場所の近くに位置するので、バスや電車で少し乗るだけで、他の国に行くことができます。学生の街として知られており、賑やかですが、自然豊かでもあり、ゆったりと過ごせる場所もたくさんありました。

アーヘン応用科学大学では、主にビジネスについて英語で学んだほか、ドイツ語の授業をドイツ語で説明を受けながら受講することも出来ました。授業は基本的には20人くらいの人数で行われ、多くても70人ほどでした。フランス、ポーランド、スペイン、カザフスタン、アルメニア、中国、韓国、アメリカなどさまざまな国からの留学生とともに学びました。授業は先生が作り上げるのではなく、学生も積極的に参加して作り上げていく形でした。自分の意見をしっかりと言うことが出来ないときはやはりしんどい思いもしましたが、周りの友達が意見を聞いてくれる環境はありがたかったです。

ドイツで生活して強く感じたことは、多民族国家であるドイツでは、いろいろな人種の人がいる生活が当たり前であったということです。日本に住んでいると外国人に出会うと『観光客なのかな』と考えることが多いと思います。ドイツではそもそも、どの人がドイツ人であるか/そうでないかが見た目からは区別がつかず、本当にさまざまな人種の方がいるゆえに、ドイツ人らしさとは何かがよくわかりませんでした。それぞれの人種を区別して捉えるという考え方はあまり良くないかもしれませんが、私はそのように強く感じました。隣国と陸続きで、移民の受け入れを多く行っているがゆえの人情を体感できたように思います。

留学生活全体を通して私が思ったことは、行動力・瞬発力の大切さです。ドイツに住む人はコミュニケーションを多く取っていて、バスで出会った初対面の人に声をかける方がいたり、わからないことがあればすぐに聞いたり、それにすぐ答えてくれる誰かがいるという状況を普段の生活の中でよく目にしました。赤の他人同士であっても、困ったときはとっさに協力し合っている姿を目にすることができたのはドイツのいいところだと思いました。日本にいと、なにか手助けをした方が良くと思われる状況で自分の中で相手がどう思うかを勝手に推測し、さまざまな理由をつけて動かないことがありましたが、その葛藤自体がもったいないのだと気づきました。なので、日本に帰ってきてからは、まずは手を差し出すというスタンスで生活しています。動いてよかったと思うことが圧倒的で、これを当たり前に行っているドイツの人の在り方は見習うべきだと感じました。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	国際経営演習	マーケティング論	ドイツ語講座		買い物、 ジャズダンスレッスン など
午後		情報技術講義	情報技術講義	マーケティング論 欧州ビジネス管理論	欧州ビジネス管理論	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

アルカラ大学



国・都市：スペイン・アルカラ
(正式名称：Alcalá de Henares)

アルカラの特徴：

首都マドリードから国鉄RENFEで約35分、バスで約30分。学問の都市、学生の街として知られています。小説『ドン・キホーテ』の作者セルバンテスの出生地としても有名です。

■創立：1977年

■学生数：約26,000人

■大学の特徴：

- ・3つのキャンパス (Campus histórico, Campus Científico-Tecnológico y Campus Guadalajara) で約30,000人の学生が学んでいます。3キャンパス間は国鉄RENFEとバスで快適に行き来できます。
- ・多くの留学生を受け入れている国際性の高い大学です。
- ・世界で最初の計画的な大学都市であること、その都市計画がアメリカ大陸やヨーロッパのモデルになったこと等から、1998年アルカラ大学と周辺の歴史地区がユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されています。
- ・大学キャンパス内部の大講堂では、毎年4月23日にスペイン語圏のノーベル文学賞といわれるセルバンテス賞の授賞式が行われます。
- ・アルカラ大学は留学生のためのスペイン語教育に力を入れています。留学生のためのスペイン語コースはすべて有料で、アルカラ大学付属のアルカリングアが運営しています。



アルカラ大学の紹介



“CRAI”
歴史地区にある大学図書館
24時間365日開館



“CRUSA”
理系キャンパス内にある大学寮



“Residencia Lope de Vega”
歴史地区にある大学寮



“Estación de Renfe (Alcalá de Henares)”
国鉄レンフェの駅 (アルカラ・デ・エナーレス)



“Comedor en el Colegio de San Ildefonso”
アルカラ大学サンイルデフォンソ
学院内の食堂



“Estadio Santiago Bernabeu”
サンティアゴ・ベルナベウ スタジアム

週間スケジュール例

First Term

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	English for Tourism Business 9:00~12:00 (グアダラハラキャンパス)	English II 9:00~12:00 (グアダラハラキャンパス)	Business Trends: A Practical Approach 11:30~14:30	Economics of the European Union 11:30~13:00	Economics of the European Union 10:00~11:30	ショッピング、美術館巡り
午後 ※						バル巡り、サッカー観戦

Second Term

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前		International trade and globalization II 10:00~13:00	Gestión Internacional de la empresa 10:00~13:00	Marketing Internacional 8:30~11:30		ショッピング、美術館巡り
午後 ※			English for Finance 18:00~21:00			バル巡り、サッカー観戦

※上記内容は派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※スペイン語履修希望者は、有料ですが、アルカラ大学付属のアルカリングアにて履修可能です。

(★) 派遣型

レディング大学


 過年度派遣学生体験記
 (2017年度夏期 BSAIV・男性)

本プログラムを通して、自分は様々な面において成長できたと思います。このプログラムを総合的に見ると、過去に習った理論などをさらに実践的にどうにかせるかなどといった、より発展的なステージで物事を考える良い機会になったと思います。そして、レディング大学での学びの環境は自分の理想に非常に近いものでした。そう考えさせられた理由は教育のシステムと内容にあると思います。

レディング大学のIFPでは、立命館のように1週間に計14科目ほど、それぞれ90分間全く別の科目を学ぶシステムとは違い、基本的に履修科目は4つで、1週間に計14回ほどの講義があり、それぞれの授業時間は50分でした。つまり、1週間の授業のコマ数は同じですが、授業を受ける時間と科目の種類が少ないのです。1週間の間に同じ科目が複数回、別々の日にあることで、仮に予習や復習ができなくても自然と頭に定着しやすくなっていました。そして受け身の授業だけでなく、Seminar、Tutorialなどと少人数形式の異なる形態の授業も行なわれていたため、より濃い内容の授業を受けることができました。

春季タームではグループワークが増え、特に経営学の授業での取り組みは忘れられないものとなりました。マーケティングプロジェクトの課題で、センター街にあるお店のマーケティング調査を行うというものがありませんでした。そのマーケティング調査をする際の着目点などは、その直前に習った理論などを参考にして、それらを反映させて顧客のデータを集めていくというものでした。こうして実験的に経営の理論を利用してデータを見るのは初めてで、非常に楽しく取り組むことができました。そこで苦労したのは、メンバー間のモチベーションの差でした。全員がという訳ではありませんが、課題に対する姿勢は文化背景によって大きく差があるように感じ、ほぼ全てのグループに必ず1人は貢献度0%の人がいたり、グループワークやリーダーシップのスキルが求められる課題でした。

留学生活中は本当に沢山の人の関わりを大切にできたと感じています。タームが始まってすぐバンドサークルやテニスクラブに所属して、授業で一緒になる学生以外の人の関わりも増やすことができました。そして、自分の趣味の音楽がきっかけで、IFPで初の、学生が特技を披露するタレントショーが開催されました。そこではメインパフォーマーとして会場を盛り上げることができ、IFP以外の人たちなども誘うことができ、面白いイベントを生み出すことができ満足しています。

たったの半年間ででしたが、沢山の人と触れ合い、出会いや環境を非常に大切にできた素敵な留学生活だったと思います。今後もこの半年間で学んだことを活かし、より良い大学生活を送りたいと思います。

※先輩体験記より抜粋

国・都市：イギリス・レディング市
レディング市の特徴：

ロンドンから電車で25分。商業都市で、国際企業の英国支社が近隣に立地しています。

■創立：1926年

■学生数：15,000人

■大学の特徵：

- ・ ヒースロー空港/ガトウィック空港へのアクセスが良い場所にあります。
- ・ キャンパス内には湖もあり、緑も多く、生活環境はとても良いところです。在学生の10%程度は留学生です。
- ・ 国際経営のレディング学派が生まれた大学であり、イギリスで最初に作られた伝統あるファウンデーションコースの経営関連の授業は、ビジネススクールの教授陣が教鞭を取ります。
- ・ ファウンデーションコースに在籍する約120名の学生と共に学修することによって、英語力だけでなく、経営学の基礎学力も飛躍的に伸びることで有名なコースです。

 週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	授業 (International English Plus など)	掃除、買い物、バスケットボールパーティー 課題など
午後	授業 (International English A など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	バスケットボール ソサエティー	授業 (Academic Skill など)	買い物など	

14 新型コロナウイルス感染症に関する留意点

海外留学プログラムの募集について

日本を含む各国の新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の感染状況は、未だ収まりを見せず、また、現地渡航を伴う海外留学プログラムを取り巻く状況は依然として厳しい状況です。

本学の学生海外派遣プログラムにおける渡航可否の判断基準では、外務省の海外安全情報（危険情報および感染症危険情報）において危険レベル **2** 以上が発令された場合、発令対象国・地域へ海外派遣は「中止」とすることを基本方針としています。

感染症危険情報レベル2または3が発令されている国・地域で、本学が定める条件および状況を踏まえ、プログラムが実施できることが確認できる場合には、例外としてプログラムを実施または継続することがありますが、学生のみなさんの生命と安全、健康を守ることを第一に、催行判断を行います。

については、今後、新型コロナの状況が改善され、海外派遣再開の条件が整った場合に限り、催行することとなりますので、以下に示す催行判断の記載内容ならびに応募にあたっての留意事項等を十分理解したうえで、応募してください。

応募にあたっての留意事項

○応募にあたっては、下記及び本要項（※1）を必ず熟読の上、応募してください。

※1：特に「16. 立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に関する承諾書」（以下、承諾書）を確認してください。

○なお、本要項は、2022年9月10日現在の情報に基づいて記載しています。新型コロナについては日々状況が変化しており、各国の対応策や派遣先大学の受入状況も流動的です。そのため、本要項の内容に変更が生じる可能性もありますので、予めご了承ください。

1. 催行判断について

- (1) プログラムの催行判断は派遣の約3か月前に行います。派遣予定者に学内メールにて判断結果を通知します（予定）。
- (2) 国内外における新型コロナの状況が著しく悪化した場合等、プログラムの応募受付開始前に募集を中止する可能性があります。
- (3) 新型コロナ等の影響を受け、以下の場合にプログラムを中止する可能性があります。派遣中止の判断は、各プログラムにより異なります。状況が急変することもあるため、渡航前及び渡航後にプログラムが中止となる可能性があることをご理解ください。

【プログラム中止となる事象】

- ① 外務省の危険情報（感染症危険情報を含む）が発出されている場合（詳細は承諾書に記載の通り）
- ② （派遣学生の国籍に関わらず）日本に対する査証制限や入国制限がある場合
- ③ 派遣先大学の事情により受入が許可されていない場合

④現地への渡航を前提としているプログラムのため、オンライン履修など、プログラムが定める教育上の目的を達成できない場合（長期プログラムを除く）

⑤上記①～④の制限がなくても、プログラム実施が困難であると本学が判断した場合

2. プログラムの取り扱い、履修、その他プログラムへの応募・参加について

- (1) プログラムが中止になった場合やプログラムを辞退した場合、他の留学プログラムへの振り替え、他派遣先大学への振り替え、留学時期の変更は行いませんのでご注意ください。
- (2) プログラムが中止になった場合、留学を前提とした履修計画に変更が生じる場合がありますので、その点予めご注意ください。
- (3) プログラムへの応募にあたっては、本要項記載の応募条件を必ず確認してください。また、同じ期間に実施される留学プログラム（国際教育センターや学部実施のプログラム）に既に応募・合格している方は、応募できません。応募する場合は、既に応募しているプログラムの辞退を申し出た後で、応募してください。

3. 健康管理、ワクチン接種について

- (1) 新型コロナの感染状況や状況の急変により、日本国内や派遣先国において、従前よりも医療サービスの提供を受けることが難しい状況も想定されます。心身や健康管理に不安がある場合は、応募前に必ず父母等や主治医とよく話し合うようにしてください。
- (2) 渡航前までに新型コロナの感染疑いや罹患者となってしまう、渡航に必要な手続が行えないこと、また渡航不可となる可能性も想定されます。プログラムへの参加が困難であると判断した場合、プログラム参加を認めませんので、予めご理解ください。
- (3) 渡航前の新型コロナワクチンの接種については、本人および父母等の意思を尊重した上で、可能な限り接種することを推奨します。ただし、以下に該当する場合は、新型コロナワクチンの接種がプログラムの参加条件となりますので、渡航前に必要となる回数の接種を完了してください。
 - ①派遣先国・地域、派遣先大学、滞在先（ホームステイ）などが留学生受入の条件として新型コロナワクチン接種を義務化している場合
 - ②派遣先国・地域において、新型コロナワクチンの接種を前提に公共機関や各種施設の利用が認められる等、新型コロナワクチン未接種者に対する行動制限や日常生活に制限が課され、プログラム参加に支障をきたすと判断した場合
 - ③団体行動を伴うプログラムへ参加する場合、新型コロナワクチン未接種により入国後の隔離緩和措置が受けられず、その結果、他の参加者との同一行動ができず、プログラム参加に支障をきたすと判断した場合
- (4) 派遣先国・地域または受入機関において新型コロナワクチン接種が必須でなく、本人および父母等の判断で新型コロナワクチンを接種しないまま渡航する場合、新型コロナワクチン未接種に起因して生じた損害・不利益などについては、本人および父母等の責任において対処することとします（「感染症危険情報」発令対象国・地域への海外派遣にあつて、当該派遣留学への参加により生じた損害、不利益等について、自己および父母等の責任で対処すること）。

- (5) 複数のワクチン接種が必要となるプログラムへ参加する場合、医師の判断の下、一定期間の間隔を設けて接種を行う必要があります。プログラム参加に必要なワクチン接種を全て完了することが、プログラム参加の条件となります。

4. プログラム参加に伴い生じる費用負担、手続について

- (1) プログラム参加中（渡航前及び渡航後）に派遣が中止になった場合やプログラムを辞退した場合の費用負担、及び帰国手続きについては、承諾書に記載の通りとなりますので、必ず確認してください。
- (2) 新型コロナの影響により、渡航に際して、ビザ申請方法の変更（PCR 検査受診の義務化等）や渡航後及び 帰国時に所定の隔離期間が発生するなどの行動制限が生じる可能性があります。その際、発生する費用（PCR 検査費用・ビザ申請費用・滞在費用など）については、すべて自己負担となりますので、予めご理解の上 ご応募ください。
- (3) 渡航国・地域、受入先の海外協定校の定めにより、ワクチン接種や陰性証明書等、従前とは異なる手続が必要となる場合があります。これらが未完了の場合、プログラム参加が認められないことを予めご理解の上、ご応募ください。

5. オンラインプログラムについて

- (1) 新型コロナの感染状況や派遣先大学の受入方針等の状況を考慮しながら、渡航ができない場合の代替措置としてオンラインでプログラムを実施する場合があります。現時点ではオンラインでのプログラム実施可否は未定のため、決定次第順次ご案内します。

6. その他

- (1) 本募集要項発行後に、募集や選考・プログラム実施などについて重要なお知らせを行う場合があります。必ず最新情報を BSA プログラムホームページ、manaba+R、学内メールにて確認するようにしてください。
- (2) 本留意事項や承諾書の内容は、新型コロナ等の状況により、プログラム開始前までに変更を余儀なくされる場合がありますので、その点予めご留意ください。

【立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項】

「立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 基本姿勢

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど。以下「プログラム」という。）に参加する学生は、次の点を遵守しなければならない。

- (1) プログラムの目的と主旨を理解し、積極的にまじめな態度で勉学に励まなければならない。
- (2) 立命館大学（以下「本学」という。）の学生として自覚と誇りを持って、本学および派遣先大学・機関（以下「派遣先」という。）の名誉を傷つける行動は慎まなければならない。
- (3) プログラム期間中は、日本の法令および本学の諸規則の他、派遣先の国・地域の法令および諸規則を遵守し、本学および派遣先の教職員の指示に従わなければならない。

2. 健康管理等

- (1) 健康管理は、自らの責任でおこない、服用の必要な医薬品や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (2) 医師による診断書などにに基づき、留学プログラムへの参加または継続が困難であると本学が判断した場合、これに従うこと。この際、日本国外に滞在している場合は速やかに帰国すること。
- (3) 前号によって参加または継続を中止した後、健康状態等が回復したとしても、教学上の理由等から、本学の判断によりプログラム復帰を認められない場合があることを理解すること。
- (4) 本学が指定する海外旅行保険に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途保険に加入することを指定される場合は、本学指定の海外旅行保険、派遣先大学指定の保険の両方に加入すること。
- (5) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について所定の方法で事前に本学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。
- (6) 傷病等により入院加療の医療措置が必要となった場合は、すみやかに本学および派遣先に報告するとともに教職員の指示に従うこと。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (7) プログラム期間中、傷病等により、父母等による救援などが必要と本学が判断した場合、父母等に対し、本学の指示に従って行動するよう、予め了承を得ること。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (8) 既往症および、現在疾患等がある状態でプログラムに参加し症状が悪化したとしても、本学および派遣先に対して、何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わず、関連して必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (9) 緊急に医療手当または手術の必要が生じた場合、学生本人および父母等の個別同意がなくとも、立命館大学または派遣先大学の担当者の判断によって処置されることがあることに同意すること。
- (10) 本学による定期健康診断もしくは本学の指定する健康診断を、出発日から遡って1年以内に受診すること。
- (11) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。

3. 経費および補償等

- (1) プログラムに要する費用（申込金・研修料・宿泊費・航空運賃・保険料等）は、指定の期日までに納入すること。
指定の期日までにプログラムに要する費用の納入がない場合、プログラム参加を辞退するものとみなす場合があること。
- (2) プログラムに要する費用の納入後は、プログラム参加の辞退はできないことを十分に理解した上で申込手続を行うこと。
- (3) プログラムの派遣候補者として選ばれることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (4) 辞退期限として指定している期日以降に、本人の傷病、処分等の理由によってプログラムへ参加または継続が出来なくなった場合、または辞退した場合や、立命館大学によりプログラム参加を取り消された場合、またはプログラムの開始前後にかかわらず立命館大学の責に帰さない事由によりやむを得ずプログラムを中止する場合には、納入されたプログラムに要する費用、当該プログラムに関わる派遣先大学・業者が定めるキャンセル料・追加料金について、学生本人または父母等が負担すること。また、当該支払に際して外貨から日本円への交換手数料が発生する場合は学生本人または父母等が負担すること。
- (5) パスポートやビザの取得手続きに関する遅延および申請却下や天災・災害・ストライキ・伝染病・政治情勢の変化・戦争・テロ、その他不可抗力に起因する事態によって、プログラムの中止、中断及び内容の変更があった場合、本学及び派遣先に損害賠償を要求せず、前号と同様の費用を負担すること。
- (6) 本人の不注意または、本学及び派遣先が管理できない状況下で、事故、病気または死亡事故が発生した場合、本学及び派遣先に対して何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わないこと。
- (7) 本人の所有物の盗難や損害、交通事故、刑事事件等、本学及び派遣先が管理できない状況下で発生した場合、本人の責任で対応しなければならないこと。
- (8) 法令または公序良俗に反する学生本人の行為により生じた損害については、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (9) 本人の故意または重大な過失により、プログラムに重大な損害を与えた場合は、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (10) プログラム参加に伴う渡航期間・受講期間が、本学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われないこと。

4. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供・共有し、プログラム運営のために利用すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けることや派遣先大学に成績情報・生活情報等の個人情報を提供することに同意すること。

5. 書類の提出

上記事項を理解し厳守するために、本人及び父母等連名による誓約書を提出すること。

(1) 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

(2) 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSA プログラムなど）に参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および父母等連名による誓約書を提出すること。

(3) その他所定の書類の提出

本学に対して、別途指示があった場合は、所定の書類についても確認し、本人および父母等連名にて所定の期日までに提出すること。

「立命館大学および本学と提携する関連機関にて代理で航空券を手配するプログラム（BSA I・I Plus・IIIなど）に参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 派遣先での研修に際しては、所定の航空便等を利用して入国し、個人での入国を行わないこと。
- (2) 派遣先での研修修了後は、所定の航空便等を使用して帰国し、個人での帰国を行わないこと。
- (3) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。
- (4) 所定の基準に基づき、学業面から留学プログラムへ参加の継続が困難と本学が判断し、帰国を命じた場合には、当該措置に従うこと。

2. 自由時間における行動および規律事項

- (1) 派遣先の寮規程または入居したホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (2) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (3) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (4) プログラム期間中に旅行または外泊をする場合は、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (5) 前号の旅行または外泊の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。
- (6) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国（地域）の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (7) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (8) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。

「各自で航空券を手配するプログラム（BSA II・IVなど）に参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 本学および派遣先が定める期間内に出国・帰国すること。
- (2) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。

2. 自由時間における行動および規律事項

- (1) 本学および派遣先が指定する居住施設に入居すること。
- (2) 派遣先の寮規程および入居した居住施設の規則に従い、生活すること。
- (3) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (4) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (5) 派遣先の休暇期間を含むプログラム期間中に、旅行または一時帰国をする場合は、派遣先にその旨を報告するとともに、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (6) 前号の旅行または一時帰国の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。
- (7) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国（地域）の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (8) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (9) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。

「オンライン留学プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 学習準備

- (1) オンライン留学等のプログラム参加にあたり、受講のための環境（パソコンやタブレット等受信機器や通信環境等）整備や受講に必要な通信費用は、学生本人が負担すること。

2. 規律事項

オンライン授業の受講にあたり、以下の行為は、情報倫理に反する行為として固く禁止する。

- ① オンライン授業のために配布されたオンライン会議システムの情報（URL、ミーティング ID、パスワード）を、授業と関係のない第三者と共有すること。
- ② ライブ形式で実施されるオンライン授業の様子を派遣先大学の担当教員や出席者の許可なく写真に撮り SNS などでも共有し、拡散すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。
- ③ オンライン授業で配布された資料等を、派遣先大学の担当教員の許可なく再配布すること。
- ④ 授業での活用を目的としてインターネット上（Youtube 等）で限定公開されている動画資料について、その URL を授業と関係のない第三者と共有すること。

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に関する承諾書

立命館大学長 様

私は、2023年度立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど。現地への渡航を伴わないオンラインのものも含む。以下「プログラム」という。）に参加するにあたり、立命館大学の代表学生として海外に派遣されることを自覚したうえで、プログラムの募集要項に記載の事項および次の各事項を承諾し、誠実に履行します。なお、承諾内容に反した場合、立命館大学の代表学生として相応しくない行動を取った場合は、プログラムへの参加取消しまたは帰国措置を命じられても、異議を申し立てません。

1. プログラム参加手続の履行

- (1) プログラム申込金および実習費ならびにその他諸経費がかかる場合は、指定の期日までに納入すること。指定の期日までにプログラム申込金、実習費等の納入がない場合、プログラム参加を辞退するものとみなす場合があること。
- (2) プログラム申込金納入後は、プログラム参加の辞退はできないことを十分に理解した上で申込手続を行うこと。
- (3) 立命館大学または経営学部・経営学研究科が辞退期限として指定している期日以降にプログラム参加を辞退する場合、立命館大学によりプログラム参加を取り消された場合、またはプログラムの開始前後にかかわらず立命館大学の責に帰さない事由によりやむを得ずプログラムを中止する場合には、立命館大学に納付したプログラム申込金、当該プログラムへの参加にあたり負担した費用、辞退・参加取消・中止により発生する費用、当該プログラムに関わる派遣先大学・業者が定めるキャンセル料・追加料金について、学生本人または父母等が負担すること。また、当該支払に際して外貨から日本円への交換手数料が発生する場合は学生本人または父母等が負担すること。
- (4) 立命館大学が指定する海外旅行保険および危機管理支援サービス（以下「海外旅行保険等」と総称する。）に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途で海外旅行保険等に加入することを指定された場合は、立命館大学および派遣先大学が指定するそれぞれの海外旅行保険等に加入すること。
- (5) 立命館大学または経営学部・経営学研究科が指定する往復の航空便、指定旅行代理店、指定査証代行取得業者、指定宿舎がある場合は、それらを利用することとし、指定の期日までに手続を行うこと。指定の期日までにビザ、パスポート等の取得ができない場合、プログラム参加を辞退すること。
- (6) 立命館大学および経営学部・経営学研究科が指定するガイダンスに出席し、指定の期日までに必要な書類を提出すること。
- (7) 立命館大学の定期健康診断を受診すること。何らかの事情で受診できていなかった場合は、指定の期日までに、別途健康診断を受診すること。医師による診断に基づき、プログラムへの参加が困難であると立命館大学が判断した場合、プログラム参加を認めないことがある。
- (8) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。
- (9) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について、指定の期日までに立命館大学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。

2. プログラムに関する諸条件

- (1) プログラム派遣候補者として選抜されることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (2) 本邦外務省による海外安全情報にもとづき、派遣先国または地域に対して危険情報および感染症危険情報レベル2以上が発令された場合、立命館大学は派遣者の生命・身体の安全を最優先し、原則、派遣の中止を判断する。派遣中止が判断された時点ですでに留学を開始している者は、本邦外務省や在外公館の勧告・命令および立命館大学の指示に従い、安全を確保したうえで速やかに日本に帰国すること。ただし、感染症危険情報レベル2または3が発令されている国・地域で、以下の条件および状況を踏まえ、プログラムが実施できることが確認できる場合には、例外としてプログラムを実施または継続することがある。また、危険情報レベル1が発令されている、もしくは発令されていない場合、または感染症危険情報レベル1以上が発令されている（例外としてプログラムが実施または継続する場合も含む。）、もしくは発令がされていない場合でも、派遣者の安全確保または学習の継続が保証できないと立命館大学が判断した場合は、派遣の中止および早期の帰国を命ずることがある。この場合において、これらの事態により発生するキャンセル料や帰国手配等に係る費用負担について、海外旅行保険で補填できない場合は学生本人または父母等の負担において対応すること。

<条件>

- ① 日本および対象国・地域における水際対策に関わり、対象国・地域への入国、査証取得および入国後の隔離措置等の影響が限定的であり、計画通りにプログラムが実施できること。
- ② （本学が手配を行うプログラムの場合）派遣先国・地域への渡航において、安全な渡航手段および旅程ならびに航空券が確保できること。
- ③ 派遣先大学が所在する地域周辺において、必要な生活物資および生活環境が確保できること。
また、公共施設（図書館等）および交通機関ならびに教育施設が営まれており、日常の生活において感染症の影響が限定的であること。
- ④ 現地の医療機関において、医療体制の逼迫や医療崩壊がなく、万が一本学の学生が感染症に罹患した場合においても現地医療機関にて対応できる状況であること。
- ⑤ 派遣先大学において、留学生の受け入れ体制が整えられていること。また、本学の学生が感染症に罹患した場合や濃厚接触者（罹患疑い）として指定された場合の対応方針が整えられており、安全に学習に取り組むことができるよう防疫措置が講じられていること。

- (3) プログラム参加中、緊急に医療手当てまたは手術の必要が生じた場合、学生本人および父母等の個別同意がなくとも、立命館大学または派遣先大学の担当者の判断によって処置されることがあること。
- (4) 医師による診断にもとづき、プログラムの継続が困難であると立命館大学が判断した場合、立命館大学の帰国措置の指示に速や

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム(BSAプログラムなど)に関する承諾書

かに従うこと。

- (5) プログラムが定める教育上の目的が達成できず、プログラム参加の継続が困難であると立命館大学が判断した場合、立命館大学の帰国ないし受講中止措置の指示に速やかに従うこと。
- (6) 帰国ないし受講中止措置を受けたとき、または自己都合によりプログラムを中止したとき、これに伴って発生する帰国費用等は学生本人または父母等が負担すること。
- (7) プログラム参加にあたり立命館大学から奨学金の給付を受けていた場合、当該奨学金の規程にもとづき、プログラム参加を中止する等の理由により、奨学金の全部または一部の返還を求められることがあること。
- (8) プログラム参加に伴う渡航期間・受講期間が、立命館大学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われないこと。
- (9) ホームステイでは、1家庭に複数名の学生が滞在する場合があること。寮・ホテルでは、1部屋に複数名の学生が滞在することが基本となること。
- (10) プログラム参加にあたり、滞在先、航空券等の諸手続、手配等を自身で行わなければならないプログラムについては、事前に諸手続、手配等について十分確認し、必ず自身の責任において遅滞なく行うこと。

3. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、派遣先大学、事務業務受託会社、旅行会社、査証代行取得会社、保険会社、保険代理店、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供し、プログラム運営や緊急時の対応のために利用することに同意すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けることや派遣先大学に成績情報・生活情報等の個人情報を提供することに同意すること。

4. プログラム参加の責任

- (1) プログラム参加中に発生したトラブルについては、基本的に学生本人の責任において対処すること。
- (2) オンライン留学等のプログラム参加にあたり、受講のための環境(パソコンやタブレット等受信機器や通信環境等)整備や受講に必要な通信費用は、学生本人が負担すること。
- (3) 学生本人が被った人的・物的損害または自己が派遣先大学もしくは第三者に与えた人的・物的損害が、次の①～⑨のいずれかにあたる場合、学生本人または父母等の責任において対処し、立命館大学に損害賠償その他のいかなる責任も追及しないこと。
 - ① 自然災害、海難、火災、政府や公共団体の指令、戦争、暴動、ストライキ、盗難、隔離、テロリズム、ハイジャック、航空機事故、交通事故、犯罪、流行病、税関規則、航空機等の突然のスケジュール変更、その他の不可抗力により生じた損害
 - ② 立命館大学が管理しえない状況で起こった事件または事故により生じた損害
 - ③ 法令または公序良俗に反する学生本人の行為により生じた損害
 - ④ 学生本人の故意または過失により生じた損害
 - ⑤ プログラムの趣旨・目的から逸脱した学生本人の行為により生じた損害
 - ⑥ 学生本人の個人的問題から生じた損害
 - ⑦ 学生本人が行った滞在先、航空券等の諸手続、手配等により生じた損害
 - ⑧ 通信障害によるトラブル等により生じた損害
 - ⑨ 2(2)の派遣の中止により生じた損害

5. 規律事項

- (1) プログラムの目的と趣旨を理解し、学習および研究に専念すること。
- (2) プログラム期間中は、日本の法令および立命館大学の諸規則ならびに派遣先大学が所在する国(地域)の法令および派遣先大学の諸規則を遵守すること。
- (3) 立命館大学および派遣先大学の教職員の指示に従うこと。
- (4) 麻薬、向精神薬等日本の法律または派遣先大学が所在する国(地域)の法律により違法とされる薬物、危険ドラッグ、銃等の所持、使用、購入および日本への持ち込みはしないこと。
- (5) プログラム参加中に、自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (6) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバダイビング等危険な行為を行わないこと。
- (7) 健康管理は自らの責任で行い、常備薬や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (8) プログラム参加中に、旅行または外泊する場合は、指定の期日までに所定様式の計画書を立命館大学および必要な場合は派遣先大学にも提出し、承認を得ること。立命館大学または派遣先大学から計画の変更や中止の指示があった場合は、それに従うこと。
- (9) プログラム参加中は、立命館大学が指定する報告を遅滞なく行うこと。
- (10) プログラム終了後はすみやかに帰国すること。立命館大学の許可なく、個人的な理由により滞在期間を延長しないこと。
- (11) 立命館大学の承認なしに、日本への一時帰国・再入国を行わないこと。
- (12) 派遣先大学の寮規程もしくは入居した寮の規則またはホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (13) 派遣先大学の授業の録画や写真撮影などは、授業担当者の許可を得ること。
- (14) 派遣先国および地域で危機が発生し立命館大学が帰国を命じた場合は、命令および指示に従い安全を確保したうえで速やかに帰国すること。
- (15) オンライン授業の受講にあたり、以下の行為は、情報倫理に反する行為として固く禁止する。
 - ① オンライン授業のために配布されたオンライン会議システムの情報(URL、ミーティングID、パスワード)を、授業と関

立命館大学経営学部・経営学研究科主管の海外学習プログラム（BSAプログラムなど）に関する承諾書

- 係のない第三者と共有すること。
- ② ライブ形式で実施されるオンライン授業の様子を派遣先大学の担当教員や出席者の許可なく写真に撮り SNS などで共有し、拡散すること。また、担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを公開すること。
 - ③ オンライン授業で配布された資料等を、派遣先大学の担当教員の許可なく再配布すること。
 - ④ 授業での活用を目的としてインターネット上（Youtube 等）で限定公開されている動画資料について、その URL を授業と関係のない第三者と共有すること。

上記のすべての承諾事項を確認の上、遵守します。

20 年 月 日

学部/専

学生証番

氏名自署

20

父母等

(父母等

父母等

〒

電話番号

応募時は承諾事項の内容をご確認いただくのみで記入不要です。
作成については合格後に経営学部事務室より別途ご案内いたします。